

1 生徒 ICT サポーターズを結成し、ルールメイキング！主役は子どもたち

生徒同士で教え合い



鴨居中学校では、昨年の10月に ICT サポーターの募集を開始し、複数回研修をした上で、教職員とともに生徒会オンラインの準備をし、成功。(現在、一年生も加わり 22 名で活動)



端末のルールメイキングまでの道のり



浸透には2~3 か月はかかります。進め行く中で生徒とともに課題を共有していく過程が重要で、ルールブックは、アップデートし続けていくことが大切。まずは、やってみる！(校長先生より)

2 1人1台端末を普段使うために…

朝、登校したら端末はロッカー・机に！

「鴨居わくわくステップゼロ」作戦のもと、文房具のように端末を普段使いができるような取組を自走しながら、行っていました。

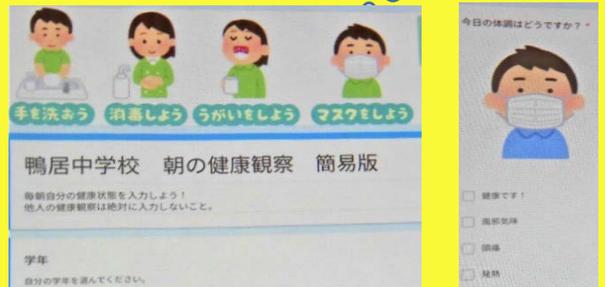
全クラスで回答

① 生徒全員の健康面を着実に把握するために、学校全体で ICT 化を統一

ICT を活用した健康観察の流れ

- ① Google classroom を作成
- ② Google form でアンケートを作成し、全クラスに張り付け
- ③ 生徒が回答

端末の立上げ1分 回答1分 計2分



全体や学年、クラスといったカテゴリーで健康状態を CSV で一括把握できて便利。一人ひとりへのチェックや返却作業もなく、余裕ができました。



先生

体温の入力と今の健康状態をチェックするだけだから簡単です！



生徒

② 朝学習のオンライン化 (AI ドリル) で自分が学びたい内容に迫る！

EBPM ってやつだね！



6 月から、知識・技能の定着を目的とした AI アプリを活用した朝学習がスタート。自分がやるべき内容をそれぞれが考え、進めていく「個別最適な学び」につながる活動として位置づけ、データに基づき、検証を進めています。

3 保護者との連携こそ ICT 化で WIN★WIN

学校からの連絡・発信を着実に、家庭からの連絡もライフスタイルに合わせて可能にした体制を構築



メール配信システム活用

- ・緊急時の連絡
- ・家庭へのお知らせを配付した連絡やアンケートなどの QR コード添付
- ・宿泊行事での解散時刻伝達など

Google form の活用

- ・保護者アンケート
- ・学校評価アンケート
- ・授業参観、懇談会等の出欠確認など

家庭と学校との情報共有システム

試用活用

- 24 時間欠席遅刻受付
- 学校からの文書データ送付など



先生

- ・アンケートなどの集計作業時間が削減
- ・電話対応件数の減少
- ・学校からの紙配付のお知らせの減少
- ⇒ 生み出された時間を有効に活用できる



保護者

- ・スマートフォンやパソコンから授業参観などの申し込みができ、とても便利になった。
- ・学校からのお便りが直接届くようになり、とても有難かった。(アンケートより)